

第5回 わかりやすい道路案内標識に関する検討会

1.日 時：平成16年12月2日(木)18:00~18:45

2.場 所：虎ノ門パストラル 新館6階 ペーシュ

3.出席者：<メンバー>

家田委員〔座長〕、赤瀬委員、大宅委員、国吉委員、久保田委員、清水委員、廻委員
<オブザーバー>

・国土交通省(以下、「国交省」と表記)

谷口道路局長、宮田道路局企画課長、大西国土技術政策総合研究所道路研究部長、
若林総合政策局観光地域振興課長、横山総合政策局事業総括調整官

・警察庁

宮内交通局交通規制課課長補佐(種谷課長 代理)

・日本道路公団(以下、「JH」と表記)

中村技術部調査役(角谷技術部長 代理)、田中高速道路部長

・首都高速道路公団(以下、「MEX」と表記)

藤井業務部交通管制室長

4.議 事：

(1)開会

(2)議事

1)意見募集の結果と対応に関する報告

・意見募集に関する主な意見と対応方針や今後のスケジュールについて事務局より報告。

2)意見交換

・東京特別区の「区」は、「City」という英語表記となるのか。この検討会で決定する事項ではないが、違和感がある。

東京都から意見が提出され確認したところ、「City」を用いているとの回答を得ている。

・今後の具体的な検討について、項目により短期的に決定できるものと長期的な検討が必要なものがある。今後のスケジュールについて、今年度中に早速具体的検討を行うとの話があったが、全てを今年度中に検討するのか。一部には慎重な技術的検討が必要な項目も含まれているように感じる。また、検討の手法として、案を作成して社会実験として試行してみる方法もある。

全てを一気に実施するのではなく、できるものから少しずつでもちゃんと進めていくことが重要。検討項目によっては、道路管理者だけではなく専門家を交えた検討が必要。項目によってはパブコメを行い、一般の意見を取り入れる。また、社会実験も必要に応じて検討する。

標識の様式そのものだけでなく、「どこ」で「何」を情報として出していくか、その方法が問題である。例えば路線や地域で試験的に実施してみて、その結果をワーキングにフィードバックしていくやり方が、効果的、効率的である。

・検討会の意見はほぼ提言に盛り込んでいると思う。改めて補足すると、情報の表現方法により、コミュニケーションの効果は大きく異なってくるため、具体的な表現方法(デザイン)を今後しっかり

りと議論することが重要。

今後の検討にあたり、十分配慮し実施していく。

- ・「重要地」「主要地」等の考え方の広報はホームページだけでは不十分である。積極的に広報していく必要がある。

広報手法についても今後検討していく。

検討項目の一つとして議事録に明記すること。

- ・提言については概ね了承したが、「今後のスケジュール」でのマネジメントに関する記述は、「作業WGにより体制構築」となっており、非常に“硬い”印象を持った。マネジメントは子供や高齢者、外国人等いろいろな人が集まって、ワクワクするようなイベントを積極的に仕掛けていく必要がある。

「今後のスケジュール」での説明は、作業WGを組織して、マネジメント会議のための企画立案といった技術的な検討を行うという趣旨であり、マネジメント会議自体は試験的にどこかの地域で柔軟に行っていくつもりだと考えてよいか。

マネジメント会議のあり方について未確定の部分も多いため、まず作業WGにより検討するという表現とした。

- ・距離を表す標識について、一般道では遠地が上方に、高速道路では近地が上方に表示されている。表示方法が統一されているほうが、混乱が少ないのではないか。

一般道では、標識に記載されている矢印に沿って遠い地名が先になるよう、遠地が上方に表示される〔案内標識(106 A)〕。しかし高速道路では走行速度が速いこともあり、ドライバーにとって最も重要な直近のIC名が、目につきやすい上方の地名となっている。〔案内標識(106 B)〕。また、〔案内標識(106 C)〕は、都市高速の入口に設置されているもので、その入口から行くことのできる方面および距離を案内するものであり、前述の標識とは設置理由が異なっている。

利用者にわかりやすい表示方法について時間をかけて議論する必要がある。国際的な基準などに照らして、検討していくことが必要ではないか。提言本文には掲載しないが、検討事項の一つとして議事録に明記する。

- ・マネジメント会議は、誰がどのように指揮をとって進めていくのか。

先にも述べたが、路線や地域によってイニシアチブをとる機関は異なると考えられるので、試験的にいろいろな方法で実施してみるということが重要であると考えられる。私はこのマネジメントの体制づくりというのは、今回一番の柱ではないかと思っている。

様々なパターンのマネジメントがあると考えられるので、先行的に実施してみることも含めて今後きちんと議論していきたい。

- ・標識に関するマネジメントが発展し、道路景観全体に対するマネジメントの取組になっていくことを期待している。

- ・高速道路の路線番号制の導入について、JHでも検討を進めている。意見にあった「路線名称についても併記すべき」については、現在の路線名称に番号を併記するという理解でよいか。

提言は特に修正していない。当初より、現在の表示内容に路線番号を追加していくことと理解している。

今まで親しんできた路線名称がなくなってしまうのは味気ない。また、仮に新規路線に名称をつけるのが難しい場合には路線番号のみでも良いかもしれない。このような内容は、適宜マネジメ

ントを行っていくべき内容である。

(3) 提言案の承認

- ・意見募集に関する主な意見と対応方針、今後のスケジュールについて検討の結果、「資料2 提言(案)」について修正なく本検討会の提言書とすることについて、座長から委員に対して提案があり、了承された。

(4) 座長から道路局長への提言書の手渡し

- ・家田座長から谷口道路局長に対して、提言書が手渡された。

(5) 閉会

以 上